

せたな町

心の居場所「陽だまり」

〈 期 日 〉

令和5年（2023年）年4月～

〈 会 場 〉

せたな町情報センター

〈 参加児童生徒数 〉

5名（小学生1名・中学生4名）



1 事業の概要

様々な理由で登校しづらい児童生徒を対象に相談したり、活動を通して集団に適応したりしながら、自身の生活を見直し、学習の意欲を高めることや学校・家庭以外での「心の居場所（＝サードプレイス）」をつくり、安心感をもてるようにすることをねらいとして実施している。

【活動内容】

- 1週間の振り返りとトピックに基づく会話、頭のストレッチ
 - 学習（国語、数学、英語）
 - その他
- 遊びを通じた交流、地域の方々との交流、体験活動や自然観察活動

2 事業の実施に当たって工夫しているポイント

心の居場所づくりを進めるために次の点について工夫して進めてきた。

【定期的な活動における工夫点】

- 安心して学習できる環境づくり
 - ・一人一人の子どもに合わせた学習活動を行った。
- ※分からないことから学習することや準備したもものから選択し、学習するなどの工夫
- 自分を表現する取組

【特別な体験活動について】

- 「技術とリズム、人間味を知る」～蕎麦づくり体験～
 - ・「北檜山手打ちそば愛好会」の方々から、材料や道具の使い方の説明や手ほどきをいただいで蕎麦づくりの体験活動を行った。
- 「自分の作品を愛する」～お菓子づくり体験～
 - ・製菓や調理に興味をもつ生徒がおり、専門家に直接指導してもらう機会を設け、材料の性質、器具・道具、作り方、技術などを直接教わるとともに、指導者の経験や志も聞くことができ「好きなこと、得意なことを見付ける」大切さなどを知る貴重な機会となった
- 「好きなものを見付け深める」～地域の協力を得る～
 - ・米づくり、魚・動物等に興味のある子どもと地域をめぐり、地域の方々と作業や説明をしていただきながら、「他の人と関わる」「興味をもつ」「自分の生活に生かす」など、自己肯定感の高まりにつながる刺激を地域の方から受けている。

3 今後の展望

令和3年度から始めた事業であり、今後も継続して活動し、児童生徒が何を必要としているのか検証する必要がある。

- 児童生徒の要望を聴き取るなどして、できることから進めることを大切にしたい。
- 児童生徒の意欲が高まる活動を通して、すこしでも他者との関わり、小さくても確かな自信をもち、安心できる「陽だまり」のような場所にしていきたい。